

Nikkei Asia、「アジア・メディア賞」の3部門 で最多5賞を獲得

日本経済新聞社の英文媒体（Nikkei Asia）（<https://asia.nikkei.com/>）は23日、世界新聞・ニュース発行者協会（WAN-IFRA）がアジア・太平洋、中東地域の新聞・雑誌社の優れた報道を表彰する2022年の「アジア・メディア賞」で過去最多の計5賞を受賞しました。新型コロナウイルス関連報道部門で最高賞の金賞と銀賞を、報道写真部門で金賞と銀賞、特集記事（新型コロナ関連を除く）部門で銀賞を獲得しました。前身の Nikkei Asian Review を含め、Nikkei Asiaとしては5回目の受賞となります。



新型コロナウイルス関連報道部門では、アジアのネット市場の拡大で疲弊する宅配業者について報じた「ネット販売ブームの過酷な現実」（スティーブン・ボロウィック記者）の記事が金賞を受賞しました。また、インドネシアなどでの苛烈な医療現場で働く医師や看護師の状況を描いたジャカルタ支局のエルウィダ・マウリア記者が執筆した「悲惨な現状 沈黙を強いられるアジアの医療従事者」が銀賞を受賞しました。

報道写真部門では、カブールの病院で肝不全の治療を受けている孫の枕元で祈るアフガニスタン人女性を撮影したポーラ・ブロンシュタイン記者の写真が金賞を獲得しました。昨年、タリバン

が政権を奪還して以来、米国の制裁と深刻な干ばつが経済の混乱に拍車をかけ、アフガニスタンの人道的危機が露呈したことを象徴する写真となりました。

また、同部門の銀賞には、ミャンマー最大の都市ヤンゴンの路上で、2021年2月の軍事政権に反対するデモ隊が発炎筒と抗議の「三本指」を掲げる写真が選ばれました。この写真は、軍事政権がメディアを厳しく取り締まる中、ミャンマーから逃れた若きフォトジャーナリスト、ベリー記者（身の安全を考慮し仮名を使用）によって撮影されたものです。

特集記事部門では中国当局の指導の下、サプライチェーンの大規模な見直しに着手し、米国技術に依存する現況からの脱却を目指す動きを追った台北支局の鄭婷方記者、黎子荷記者の「米中ハイテク戦争 北京の半導体製造の隠れた覇者」が銀賞を受賞しました。

受賞について奥村茂三郎編集長は「新型コロナウイルス関連報道部門で2年連続の金賞を受賞できたことは、Nikkei Asiaの問題意識と報道のクオリティーが評価された結果だと受け止めています。コロナ報道に加え、米中のハイテク戦争やアフガニスタンとミャンマーの人権問題など幅広いテーマでの報道が認められたのは『アジアの鼓動を世界に伝える』ことをミッションとするNikkei Asiaにとって誇らしいことです」と述べました。

WAN-IFRAには世界120カ国・地域の報道機関が参加しており、アジア・メディア賞は今年で21回目となります。ニュース報道や特集記事といったコンテンツに加え、デザインや写真報道なども表彰の対象にしています

〈Nikkei Asiaについて〉

成長著しいアジアの経済圏の実像をアジアに籍を置く日本経済新聞ならではの視点で発信する英語のサービスです。アジアに密着した取材網を生かし、深掘りした独自記事を数多く公開。日経の翻訳記事も含め、経済の専門家による寄稿、知識人の洞察、見解、分析を交え、アジアのいまをお伝えしています。アジアの未来を担う世界中のリーダーたちや、アジアについて詳しく知りたいという方々のために、バイアスのない「真のアジア」を提供します。

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は1876年以来、140年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約1500人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の販売部数は181万部、2010年3月に創刊した「日本経済新聞 電子版」をはじめとするデジタル有料購読数は91万で、有料・無料登録を合わせた会員数は500万を上回っています。

本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 TEL:(03)3270-0251 (代表)